

### 3 地域経済の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

#### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 15 年 5 月）	今回（平成 15 年 8 月）	
観光	持ち直している	一時的に減少した	
雇用情勢	厳しさを増している	依然として厳しい	

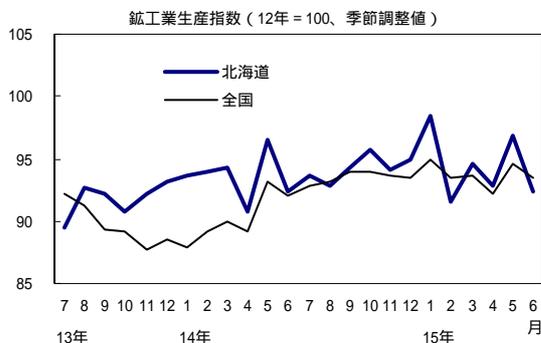
#### 1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年を上回り、水産業は前年を下回っている。

生乳生産は、乳製品向けが減少しているものの、飲用牛乳等向けが増加したことから、前年を 1.5% 上回っている。水産業（主要 9 港主要品目）は、タラ・スケトウダラ・カレイ類とも減少し、水揚量は前年を下回っている。

(2) 鉱工業生産は緩やかに減少している。

食料品・たばこは、サケやマス等の塩蔵品の不調により、減少している。パルプ・紙は、新聞巻取紙等の落ち込みにより、減少している。電気機械は、水晶振動子や電磁リレー等の好調により、増加が続いている。窯業・土石は、公共投資や民間投資の縮小が続き、低水準で推移している。金属製品は、電力向けの鉄塔が伸び、増加している。



#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

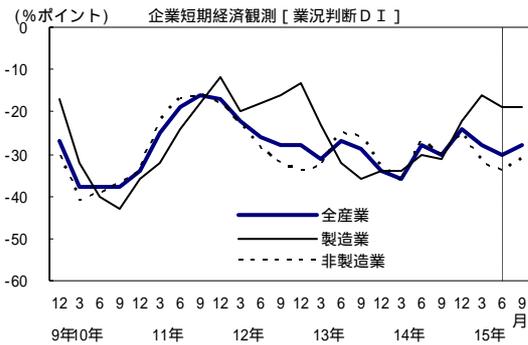
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
食料品・たばこ	26.5	1.3	1.8	0.6	5.4
パルプ・紙	12.1	2.2	3.7	2.9	3.4
電気機械	9.5	3.8	3.4	1.5	5.0
窯業・土石	9.0	0.1	1.8	3.2	4.7
金属製品	9.0	0.0	4.7	4.4	27.7
鉱工業	100.0	0.1	0.8	1.8	0.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

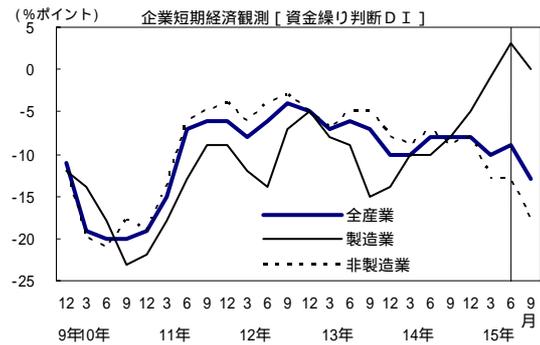
2. 4～6 月期は速報値。

(備考) 平成 15 年 6 月の北海道は速報値。

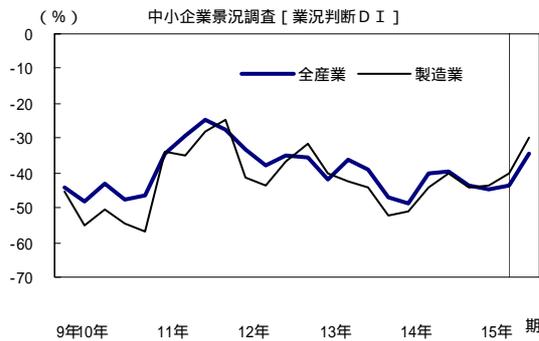
(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。  
 企業短期経済観測調査 [ 業況判断D I、資金繰り判断D I ] 及び中小企業景況調査 [ 業況判断D I ]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年9月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年9月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [ 企業動向関連 (現状判断) ]

「仕事は回り出したが、取引先に「すぐ持って来い」と言われるため、在庫量が増大している (その他非製造業 [ 機械卸売 ])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

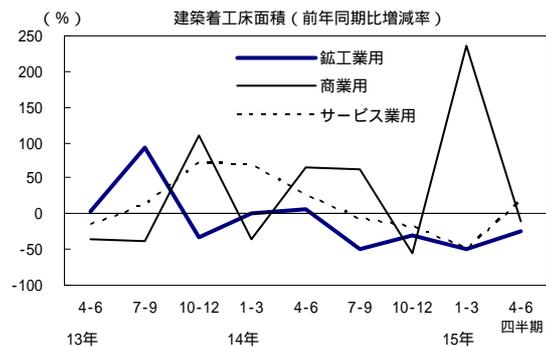
(4) 設備投資の15年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 (6月調査) ]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度計画
全産業	9.5 (0.3)	15.2 ( 9.1)
製造業	5.1 (0.2)	24.7 (22.4)
非製造業	11.7 (0.4)	10.0 ( 4.0)

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。電気・ガスを除く。

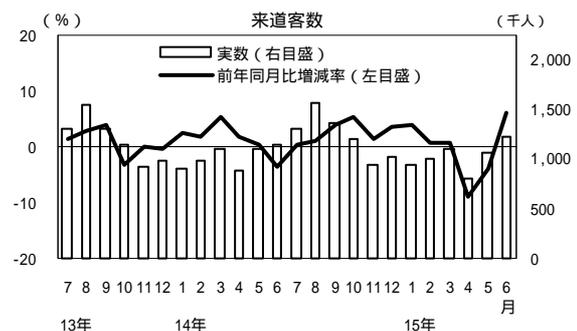


(5) 観光は一時的に減少した。

4、5月は、統一地方選挙、ゴールデンウィークの曜日配列、SARS( 新型肺炎 )の影響で、前年を下回った。

6月は、SARS終息の安心感、YOSAKOIソーラン祭りを持ち直したのに加え、昨年のサッカーワールドカップに対する反動増もあり、前年を上回った。

4月の落ち込みは大きかったものの、四半期末みると前年比1.7%減にとどまった。



(備考)北海道観光連盟調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

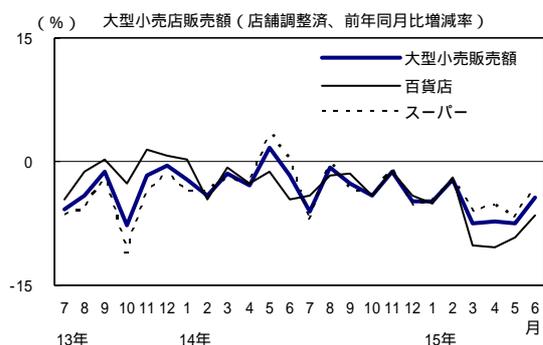
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、長らく低迷していた主力の婦人・子供服のマイナス幅がこのところ縮小するなど下げ止まる動きもみられるが、札幌の大型複合商業施設開店の影響が続き、既存店ベースでは前年を下回って推移した。ただし、全店ベースでは5、6月に前年を上回る好調さを示した。

スーパーは、6月に衣料品が10か月ぶりに前年を上回るなどの動きがあったものの、全体では12か月連続して前年を下回った。ただし、全店ベースでは11か月連続で前年を上回っており、新規出店の効果がみられる。

景気ウォッチャー調査（7月調査）[家計動向関連D I（現状判断）]

「全体的な流行りに変化はないが、大手百貨店の閉店に伴い、客の動きに変化が表れている（商店街）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

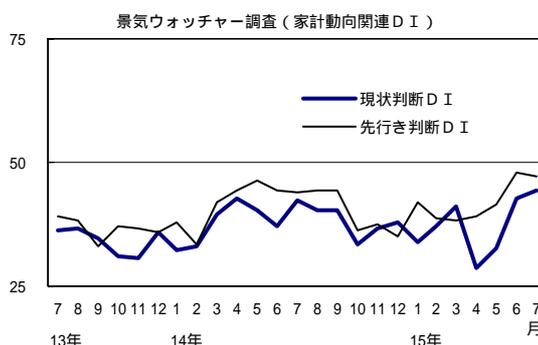
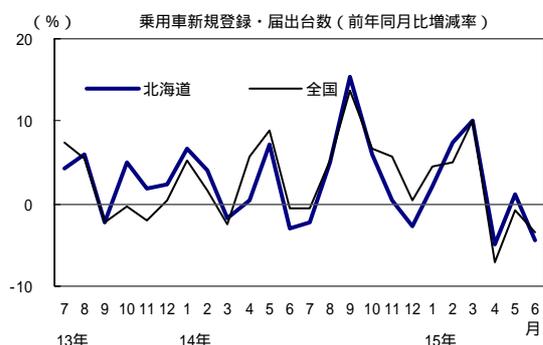


(前年同期比増減率、単位：%)

	14年7-9月	10-12月	15年1-3月	4-6月
大型小売店	3.3	3.5	5.1	6.4
百貨店	2.5	3.2	6.1	8.7
スーパー	3.8	3.7	4.5	5.0
乗用車	5.9	1.4	7.8	2.8
景気ウォッチャー	41.1	36.1	37.4	34.6

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

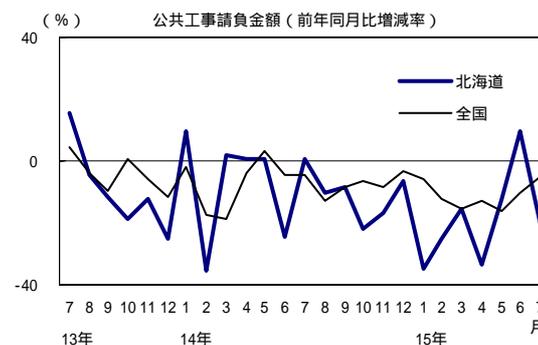
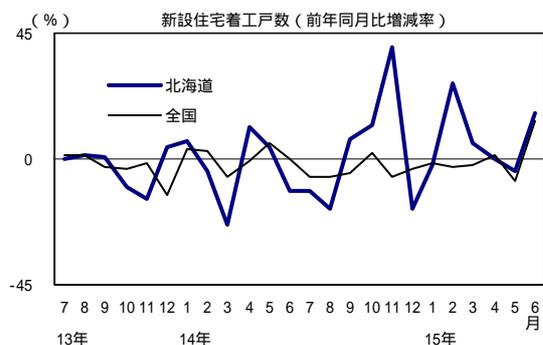
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を下回ったものの、貸家、分譲が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

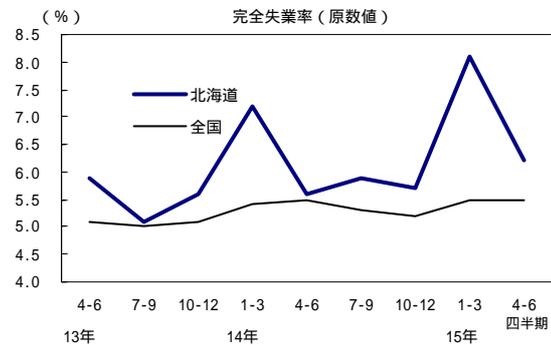
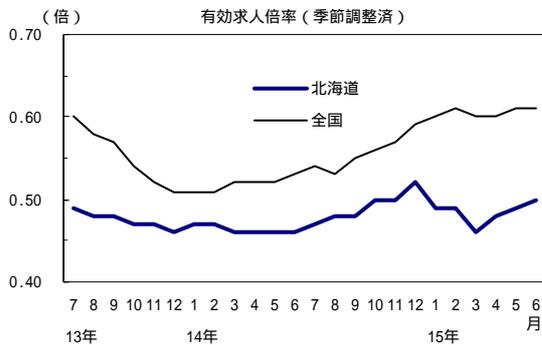


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(7月調査)[雇用関連(現状判断)]

「企業の業績は、相変わらず芳しくない。ただし、やる気のある優秀な人材への注文は、逆に増えている(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばい、負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年7-9月	10-12月	15年1-3月	4-6月	15年7月
倒産件数	182	151	214	191	48
(前年比)	10.8	25.6	6.5	2.7	31.4
負債総額	448	1,026	1,105	2,610	63
(前年比)	55.1	66.0	24.6	337.8	79.9



景気ウォッチャー調査(7月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

・かつてからすると微々たる比率ではあるが、売上が増加基調にある。財布のひもは相変わらず固いが、客の様子も明るく、楽しんでいる雰囲気うかがえる(観光型ホテル)。

<先行き>

・冷夏で夏物衣料が売れず、逆に秋物衣料が売れているため、3か月後に需要期を迎える秋冬物が前倒し傾向になっている(スーパー)。

